



総務省 行政評価局 政策評価課 客観性担保評価推進室 専門官

川瀬 仁志

Hitoshi Kawase

平成 19年 4月 総務省採用
同 行政管理局行政情報システム企画課
平成 20年 7月 同 大臣官房総務課
平成 21年 7月 内閣官房地域活性化統合事務局
平成 23年 7月 総務省人事・恩給局公務員高齢対策課係長
平成 24年 8月 国土交通省総合政策局安心生活政策課主査
平成 26年 7月 内閣府地方分権改革推進室参事官補佐
平成 28年 7月 現職

悩んで、考えて、結論を出す

国家公務員に興味を持たれている皆様は、どういったことに興味があって、どういったことを実現したいと考えていますか？私は、まず借金が増え続けている日本の財政に興味を持ち、個々の事業は本当に必要性について検証されているのだろうか、無駄があるのではないだろうか、という問題意識があって政策評価に興味を持ち、総務省に入省しました。

地方分権と大臣の言葉

これまで総務省に4年勤務したほか、内閣府(地域活性化・地方分権)に4年、国土交通省(バリアフリー)に2年、どこでも国ならでの面白い仕事をさせていただいています。直近では地方分権に関わりました。具体的には、国から地方への事務・権限の移譲などに関する提案を地方公共団体から募り、実際に事務を行っている各府省と提案の実現に向けて議論する仕事です。移譲を求める地方の主張と移譲してはうまくいかないとする各府省の主張がぶつかり、悩む中で、地方分権を担当していた石破大臣からは、「それぞれの役所の理屈を言ってもしょうがないのであって、実際に職

を求められる方、人を必要としている人にとって、何が一番いいのかという観点から結論を」との指示を受けました。悩んでばかりで利害調整の軸が定まらなかった私は、この言葉にかなりの衝撃を受けたことを昨日のように思い出します。

興味があった政策評価に関わって

現在は入省時に最も興味があった政策評価に関わっています。政策立案の流れは、大まかに言って現状の問題点を分析し、あるべき方向を定め、手段・方法を吟味して実施するということであろうと思います。各府省が行う施策について、目指す方向を指標とその目標値という形で事前に示し、事後に達成状況を分析し、施策の改善につなげていくというのが目標管理型の政策評価で、国の約500施策で当該評価が行われ



将棋でも悩み、考えます。

ています。私の仕事は各府省が行っている目標管理型の政策評価を横串で見、好事例や改善すべき事例を抽出・分析し、各府省に伝えることとなります。

「評価」の妥当性

「評価」によって複雑で難しい事象を誰にでもわかりやすく伝えることが可能になります。しかし、評価は、ある複雑な事象を一面的にとらえて判断を下す側面がありますし、数字で表された評価結果の一人歩きという負の側面にも気をつけなくてはなりません。入省して10年、様々な府省や地方公共団体の方々と仕事をして感じたことは、日本の公務員は熱意を持って真面目に仕事に取り組んでいることと、様々な利害関係者がいる中で、悩みながらそれぞれの課題について答えを出しているということです。こういった熱意をスポイルすることなく、より効率的・効果的な政策が行われるにはどういった評価のあり方が望ましいのか、簡単に答えは出せず日々悩んでいます。石破大臣の言葉も参考に、「行政サービスの利用者である国民にとって何が一番いいのか」を考えて、結論を出したいと思っています。

社会人となり早7年。入省当時、7年目の先輩といえば、はるか遠い存在だと思っていましたが、月日というのは不思議なものです。

統計行政は地味？

さて、私は現在、統計行政に携わらせていただいております。

「統計？なんだか地味だなあ。」と思われる方が多いかも知れませんね。外交や地方自治といった言葉からも溢れ出るダイナミックさに比べれば、直感的な魅力は感じづらいかも知れません。

しかし、あらゆる行政運営において、「統計」は非常に重要なものです。

国民生活に影響ある政策判断を勝手気ままにするなどはあってはならない話です。何故そう判断したのかを国民の皆さんに納得いただく「根拠」が必要でしょう。では、その「根拠」とはなんでしょうか？経験？勘？…そのようなもので納得できるわけはなく、可能な限り客観的な指標でなくてはならないはず。そこで「統計」です。Evidence Based Policy Making…根拠に基づいた政策形成。雇用政策に活かされる失業率や、経済政策に活かされる消費者物価指数。一つ一つの政策が国民生活の基盤を作っている

のだとすれば、「基盤の『基盤』」を作っているのが、我々統計行政に関わっている者達なのです。

統計改革の風によって ～「見える化」から「魅せる化」へ～

しかし、そんな「統計」の信頼性が揺らいでいます。

少子高齢化や単身世帯の増加といった社会経済構造の変化を捉えてきた統計。しかし、統計自身がその変化に必ずしも対応できていないのではないかと指摘がなされています。

統計が歪めば、根拠が歪み、ひいては政策が歪む。より正確な「今」を測るため、新たなデータソースであるビッグデータの活用なども含め、これまでとは違った考えに基づいて動かなくてはならない時が来ています。

とはいえ、「統計」の重要な構成要素が統計調査への回答結果であることは今後も変わらないところ。よって、「より正確な『今』を測る」ために最も必要なことは、国民の皆さんに「面倒だけど、統計調査は回答しなきゃな。」と思っていただくことではないかと私は考えます。統計行政はデータのオープン化など「見える化」に積極的に取り組んでいます。そこからさらに一歩踏み出し、国民の皆さんの興味関心を惹き、統計が自分の生活に直結するということを感じてもらい、言

うなれば「魅せる化」に今後は取り組んでいく必要があるのではないかと考えています。

今吹く統計改革の風。変化に怯え、向かい風としてしまうのではなく、向くべき方向を見定め、追い風としていくべきでしょう。

やりがいを与える場所

振り返ってみれば、この7年間、統計調査の設計から公務員人件費改革まで、非常に幅広い経験をさせていただきました。まだまだ社会人として、行政官として未熟ですが、時に的確なアドバイスをいただける頼もしい同僚に囲まれ、日々成長を感じられるやりがいに溢れた毎を送らせていただいております。

多岐にわたる行政分野、数多くの魅力的な先輩方…「総務省」には自らを成長させる最高の環境があります。「ここ」に「やりがい」があります。皆さんとともに成長できる日々を楽しみにしております。



家族との時間が一番大事♪

総務省 統計局 統計調査部 調査企画課 係長

最上 桂

Kei Mogami

平成 22年 4月 総務省採用
同 統計局統計調査部経済基本構造統計課
平成 24年 1月 内閣官房行政改革実行本部事務局
平成 24年 12月 同 行政改革推進本部事務局
平成 26年 7月 総務省政策統括官(統計基準担当)付統計審査官(経済統計担当)付主査
平成 28年 4月 現職

「未来」を創るために 「今」を魅せる

